

インタビュー

2019年夏季
企業トップ
インタビュー ①

令和初の夏を迎え、高齢者の増加や、若年者層における健康や美意識への高まりから健康食品市場はますます拡大が進むと予想される。2020年に開催される東京オリンピックに向けてスポーツ関連商材の需要が活発化する。加えて、外国からの訪日者数が増加し、それに伴うインバウンド需要の伸長など、海外における日本製サプリメントの需要の飛躍も期待され、今後の後押しになることが期待される。今回、業界で活躍する各社のトップにインタビューを行い、今後の戦略や注目の商材について語ってもらった。

インタビュー

●日本緑茶センター

代表取締役社長 北島 大太朗 氏 16面

●光英科学研究所

代表取締役 村田 公英 氏 17面

●GLART

代表取締役 山口 博 氏 17面



会社概要
1969年設立。乳酸菌生産物質の研究開発・製造販売を手掛ける。2017年度「彩の国経営革新モデル企業」、経産省「健康経営優良法人2019」認定企業。

☎048・467・3345

「ンズ」は、同定された100種以上の菌株の中から選抜された16種35株の人の腸内由来の善玉菌を豆乳(無農薬栽培した国産大豆由来)の培地で、若い健康な人の腸内

り、腸内環境改善、免疫賦活、抗メタボ、美肌作用といったエビデンスを取得していることも特徴です。また、同素材が身体に健康に有用な34のペプチドを含む352種類

集まる中、当社は城西大薬学部の徳留嘉寛教授らと共同で実施した、乳酸菌生産物質の肌のバリア機能の促進作用とその有効成分がトリリノリンであることを明らかにし、今年3月に開催された「日本薬学会(第139年会)」で学会発表しました。

村田 原料の需要拡大に伴い、自社工場を昨年増築しました。また、今年7月に、当社は原材料GMPと製品GMP(製剤工程・液)(包装工程・顆粒・粉末、ソフトカプセル、液)の健食GMPを取得しました。

エビデンスのある高品質な乳酸菌生産物質の原料・OEM供給に努めるとともに、一般食品分野などにアプローチしていくことで、乳酸菌生産物質のさらなる認知普及に努めていきます。

また、社内にHB事業部(Health&Beauty)を立ち上げ、化粧品やサプリメントといった自社商品の販売にも力を入れていきます。

光英科学研究所

代表取締役

村田 公英 氏

乳酸菌生産物質を一般食品分野へ

の認知拡大、乳酸菌との差別化などを背景に、おかげさまでサプリメントだけでなく、一般食品分野からの問い合わせもいただいております。また、海外企業からの化粧品原料としての引き合いが増えています。

——御社の乳酸菌生産物質の特徴は?

村田 「シックスティーン

と同じ環境(37℃)のもと、約5日間自社工場で大規模培養し、エキスとして抽出精製しています。高い体感や長年の供給実績に加えて、大学や各種研究機関など共同で乳酸菌生産物質のさまざまな機能性を見出し

の乳酸菌発酵代謝物質(水溶性235種類、脂溶性17種類)から構成されていることをメタボローム解析によって明らかにしています。

——新知見について。

村田 腸内フローラと皮膚生理の関係性に注目が

こうした研究成果をもとに、乳酸菌生産物質の美容分野への提案強化と、新規成分トリリノリンの解明および機能性表示に向けた取り組みも視野に入れていきます。

——今後の展開について。

——乳酸菌生産物質の引き合いはいかがですか。
村田 当社は、乳酸菌生産物質の専門企業として、50年以上にわたり、乳酸菌生産物質の研究開発および製造販売に取り組んでいます。原料のラインアップは、液体品の「シックスティーンズ」と、同素材の発酵物を100%粉末化した高濃度粉末品「FF16(ファインフローラ16)」を展開しています。

近年は、腸内フローラ